

大型クラゲ等有害生物出現調査及び情報提供委託事業

長野晃輔

目 的

大型クラゲ（エチゼンクラゲ）等の出現・分布状況を、試験船による洋上調査及び県内漁協・漁業者からの聞き取り等により迅速に把握し、漁業者等に情報提供して漁業被害の軽減を図る。

材料と方法

1. 洋上調査

2022 年 9 月 27～28 日に、試験船青鵬丸により青森県日本海沖で大型クラゲの目視調査を実施した。

2. 出現量調査

キタミズクラゲは電話や当研究所が発行する漁海況速報等で情報収集を依頼し、大型クラゲは県内の全漁協に対して出現状況（日別、漁協別、漁業種類別）について、メールや F A X 等により情報収集を依頼し、本報告では 2022 年 8 月～2023 年 3 月分をとりまとめた。

3. 標本船調査

キタミズクラゲは 2022 年 5 月から 7 月にかけて、太平洋側に位置する六ヶ所村漁業協同組合所属の小型定置網漁業者 1 名に標本船調査を依頼し、入網状況について日報の提出を受けた。大型クラゲは 2022 年 10 月から 2023 年 3 月にかけて、日本海側に位置する新深浦町漁業協同組合所属の小型定置網漁業者 1 名に標本船調査を依頼し、入網状況について日報の提出を受けた。

結 果

1. 洋上調査

調査実施期間において、大型クラゲの出現は確認されなかった（表 1）。

2. 出現量調査

(1) キタミズクラゲ

大量出現の情報はなかった。

(2) 大型クラゲ

2022 年度は、太平洋で 5 個体の出現報告があった。出現時期としては平年並みで、9 月 22 日に八戸市大久喜沖（大型定置）での報告があり、10 月 28 日の八戸市種差沖（大型定置）での報告以降の出現情報はなかった。本年度は青森県では皆無に近い出現状況であった。

これらについては、（一社）漁業情報サービスセンターへ報告したほか、当研究所が発行する漁海況速報に掲載し、漁業関係者へ情報提供を行った。

3. 標本船調査

(1) キタミズクラゲ

標本船調査は 5 月 30 日からとなったが、期間を通してキタミズクラゲの出現は極めて少なく、サイズは傘径 30 センチ以下であった（表 2）。

(2) 大型クラゲ

調査期間中、大型クラゲの入網はなかった（表 3）。

表 1. 2022 年度大型クラゲ目視調査結果

調査月日	表面水温	目視個体数	調査船名
9月27日～28日	21.5～23.2℃	0	青鵬丸

表 2. 2022 年度キタミズクラゲ標本船調査結果（六ヶ所村漁協、小型定置網）

月	調査 日数	乗網日数 (%)	個体数			水温 (℃)	被害の 有無
			大型 (31cm以上)	中型 (21～30cm)	小型 (11～20cm)		
5	1	1(100.0)	0	1	1	11	なし
6	10	10(100.0)	0	68	0	11～16	なし
7	4	4(100.0)	0	17	0	17～19	なし

表 3. 2022 年度大型クラゲ標本船調査結果（新深浦町漁協、小型定置網）

月	調査 日数	乗網日数 (%)	個体数			水温 (℃)	被害の 有無
			大型 (100cm以上)	中型 (51～99cm)	小型 (50cm以下)		
10	18	0(0)	0	0	0	－	なし
11	25	0(0)	0	0	0	－	なし
12	13	0(0)	0	0	0	－	なし
1	19	0(0)	0	0	0	－	なし
2	19	0(0)	0	0	0	－	なし
3	2	0(0)	0	0	0	－	なし